令和 7 年度市民福祉ニーズ調査 設計の考え方(案)

1 基本的な考え方(市民, 高齢者, 障害者・難病患者, 障害児の保護者共通)

- 福祉に関する市民意識やニーズなどの経年推移を分析する必要があるものは、基本的に令和 4 年度調査と同じ設問を設定する。
- 社会情勢の変化や今後の福祉施策に必要な視点を踏まえ、設問の加除・変更を行う。
- 設問数は令和 4 年度調査と同数程度とする（回答者の負担軽減のため、必要に応じて減らす）。

2 設問の追加・削除・変更

①新規に調査する設問

番号	市民	高齢	障害・難病	障害児	項目	追加理由
1	●	●	●	●	孤独・孤立の状況	孤独・孤立対策推進に向けた状況把握のため
2	●	●	●		ひきこもりの状況	ひきこもり支援の推進に向けた状況把握のため
3	●	●	●		更生支援（再犯防止）関係	更生支援の推進に向けた状況把握のため
4			●	●	移動困難者の状況	移動困難者の交通手段検討に向けた交通手段の現状把握のため
5	●	●	●	●	意思疎通支援	R6 年度に手話言語条例・障害者の多様な意思疎通に関する条例を制定。普及状況の把握のため
計	4	4	5	3		

②令和4年度調査から削除する設問

調査種別	問	設問	削除理由
市民 (4減)	問 17	コロナ禍による暮らしへの影響	新型コロナウイルス感染症が令和5年5月から「5類感染症」に移行し2年が経過したため。
	問 20	複合的な課題を抱えた世帯を発見した際の対処行動	令和4年度調査結果から、行動傾向について概ね把握できている（市の相談窓口32.1%、わからない21.3%等）。この結果を受けて、対処方法の周知、相談後の関係機関連携に今後も取り組むことから、経年で把握する必要性は低い。
	問 25	スマートフォン等の利用状況	令和4年度調査結果から、スマートフォン等の普及状況についてはある程度把握することができていること。また、デジタル・ディバイド対策は必須であり、経年比較する必要性が低い。
	問 26	講座やイベントのオンライン化の参加意向	オンライン導入が普及してきたため。
高齢者 (2減)	問 23	避難行動要支援者名簿の登録意向	避難行動要支援者名簿の登録に当たっては、「調布市避難行動要支援者避難支援プラン」に基づき、地域防災計画に定める要支援者の範囲に該当の高齢者・障害者等に対し、同意確認を実施している。そのため、本同意確認により、対象となる要支援者全員の同意・不同意の状況は捉えていることから、本調査項目は削除する。
	問 24	「高齢者」を意識する年齢	過去の回答結果について、有用なクロス集計等をしていないことから、他の設問との優先度を考慮し削除する。
障害者・難病 (1減)	問 24	コロナ禍による暮らしへの影響	新型コロナウイルス感染症が令和5年5月から「5類感染症」に移行し2年が経過したため。
障害児の保護者 (1減)	問 16	コロナ禍による暮らしへの影響	

③令和4年度調査から変更する設問

調査種別	R4 設問			R7 設問		変更理由
	問	設問		問	設問	
市民 (4問)	問 11	地域活動・ボランティア活動の現状と意向	→	問 11	地域における日頃の活動等の現状と意向	日頃心掛けている行動を含む設問に変更 選択肢を「取り組んでいる, 心掛けている」に変更
	問 18 付問	経済的に困った理由		問 18 付問	経済的に困った理由	選択肢に「物価高騰」を追加
	問 21	困りごとの相談先の有無	→	問 21	困りごとの相談先の有無	選択肢に「仕事・学校関係者（職場の同僚・学校の先生等）」を追加
	問 28	判断能力が低下した際の支援者の希望	→	問 28 付問	各制度の利用意向 利用しない理由	回答結果に経年による変化が見込まれないため、問 27 に記載の成年後見制度の利用促進の視点を踏まえた設問に変更
高齢者 (12問)	問 13	地域活動・ボランティア活動の現状と意向	→	問 13	地域における日頃の活動等の現状と意向	日頃心掛けている行動を含む設問に変更 選択肢を「取り組んでいる, 心掛けている」に変更、かつ、頻度を聞く選択肢に細分化
	問 16	現在の職業	→	問 16	現在の職業	選択肢を「シルバー人材センター」と「有償ボランティア」に分割
	問 19	避難が一人でできるか	→	問 19	緊急時の備えの状況	災害時の備え・その内容に関する設問に変更 (問 19 に問 21 を統合)
	問 21	避難場所・避難経路・警戒区域等の確認状況				
	問 20	避難を助けてくれる人の有無	→	問 21	避難を助けてくれる人の有無	設問の順番を変更

	R4 設問			R7 設問		
調査種別	問	設問		問	設問	変更理由
	問 22	避難情報の入手先	→	問 20	避難情報の入手先	設問の順番を変更 選択肢「防災アプリ」「友人・知人・家族」を追加
	問 28	判断能力が低下した際の支援者の希望	→	問 28 問 29 付問	権利擁護等の制度や事業の認知度 各制度の利用意向 利用しない理由	回答結果に経年による変化が見込まれないため、成年後見制度の利用促進の視点を踏まえてた設問に変更
	問 29	コロナ禍による暮らしへの影響	→	問 30	コロナ禍後の今の暮らしへの影響	現在の状況を問う内容に変更 項目を一部削除（趣味・学習・教養の時間、時間を持て余す頻度）
	問 31	相談できない生活上の困りごとの有無	→	問 32	相談できない生活上の困りごとの有無	高齢者総合計画の目標値に設定中 問 31 と付問を統合した
	付問	(あると答えた人)困りごとの内容				
	問 34	地域の暮らしやすさ	→	問 35	地域の暮らしやすさ	項目に「医療機関への通いやすさ」「地域での就労の機会」を追加
	問 35	高齢者の生活を守る取組や相談窓口等の認知度	→	問 36	高齢者の生活を守る取組や相談窓口等の認知度	高齢者総合計画の目標値に設定中 項目に「シルバー人材センター」を追加